

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律理論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	9回（18単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	ピアノ 調律コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 10年 楽器店に勤務後、フリーランスの調律師として活動中。				
授業概要					
グランドピアノを構成する部品の名称、役割を学ぶ。 「調律理論Ⅰ」で学んだ音響物理学の知識を活用した調律方法を学ぶ。					
到達目標					
検査音程を計算式で覚え、調律の精度を上げる。 グランドピアノを構成する部品の名称を覚え、それぞれの役割と働きを理解する。					

授業計画・内容	
【前期】 1回目	グランドピアノの部品とその働き
【前期】 2～3回目	中・高音部の検査音程 ・長3度、オクターブ長3度、2オクターブ長3度について ・4度、5度について
【前期】 4回目	中・高音部の検査音程 ・オクターブ5度、2オクターブ5度について ・2オクターブ、3オクターブについて
【前期】 5回目	低音部の調律と検査音程 ・長3度について ・短3度と長6度について
【前期】 6回目	低音部の調律と検査音程 ・短7度、オクターブ短7度、2オクターブ短7度について ・差音について
【前期】 7回目	下律
【前期】 8～9回目	下律から本律への流れ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	本講義の理論を身につけることによって、1年次に身につけた調律技術を発展させ、より質の高い調律を短時間で完成することが可能となります。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	整調理論(アップライト)Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	8回（16単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
ピアノの故障と原因、またそれらを発見する方法について学ぶ。					
到達目標					
仕事の現場において素早く、柔軟な対応が可能な技術を修得。					

授業計画・内容	
【後期】 1回目	アップライトピアノの整調、全24程について ・目的、基準、使用工具、作業方法の確認。 ・作業を効率化させるための考え方、方法論。
【後期】 2回目	アップライトピアノの整調、全24程について ・各工程の関連性の把握。
【後期】 3回目	ピアノに起こる故障と原因について ・各部品の使用による摩耗、摩滅、経年変化など
【後期】 4回目	ピアノに起こる故障と原因について ・温湿度の変化による膨張、収縮、乾燥で起こるもの
【後期】 5回目	ピアノに起こる故障と原因について ・取扱いの不注意での故障 ・虫害、自然災害のよるものなど
【後期】 6回目	故障が起こりやすい箇所、故障の発見 ・鍵盤系：ガタ、スティック、接着剤切れ、雑音
【後期】 7回目	故障が起こりやすい箇所、故障の発見 ・アクション系：ガタ、スティック、スクリュウの緩み、消耗品の破損など
【後期】 8回目	故障が起こりやすい箇所、故障の発見 ・雑音：部品の接触、スクリュウの緩み、共鳴など
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	1年次に学んだ整調理論を応用させる講義であるため、講義「整調理論(アップライト)Ⅰ」の理解、習得は必須です。本講義の理論を身につけることで、工程順だけでなく原因別でも作業ができるようになります。理論と実技を並行して行ない技術を身につけます。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調理論(グランド)		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	8回（16単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
実演を通じて部品の構造や働き、それらがタッチに与える影響や部品同士の関連を理解しながら、グランドピアノの調整方法を学ぶ。					
到達目標					
各工程の手順を覚える。					

授業計画・内容	
【前期】 1回目	アクション系全24工程の項目 第1工程：ネジ締め 第2工程：フレンジ点検 第3工程：ハンマー間隔直し 第4工程：ハンマー走り直し 第5工程：ハンマー角度調整 第6工程：弦合わせ 第7工程：鍵盤調整 第8工程：ベディングスクリュー調整
【前期】 2回目	アクション系全24工程の項目 第9工程：鍵盤ならし 第10工程：鍵盤間隔直し 第11工程：白鍵あがき 第12工程：サポート合わせ
【前期】 3回目	アクション系全24工程の項目 第13工程：ジャック前後調整 第14工程：ジャック高さ調整 第15工程：ハンマーならし 第16工程：ハンマー接近
【前期】 4回目	アクション系全24工程の項目 第17工程：ハンマー戻り 第18工程：黒鍵あがき 第19工程：働き調整 第20工程：バックチェック合わせ
【前期】 5回目	アクション系全24工程の項目 第21工程：バックチェックワイヤー曲げ 第22工程：ハンマーストップ 第23工程：レペティションレバースプリング調整 第24工程：アクション系総点検
【前期】 6回目	ペダル系全12工程について 第1工程：ダンパーレバー調整 第2工程：ダンパーガイドレールブッシング調整 第3工程：ガイドレール取り付け 第4工程：ダンパー取り付け
【前期】 7回目	ペダル系全12工程について 第5工程：ダンパー掛かり調整 第6工程：ダンパーストップレール調整 第7工程：ソステヌート調整 第8工程：ダンパーペダルストップ調整
【前期】 8回目	ペダル系全12工程について 第9工程：ダンパーペダル掛かり調整 第10工程：シフトペダル調整 第11工程：打弦位置の調整 第12工程：総点検
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	講義は工程ごとに分割して行い、その都度アクションモデルを使用した作業を行います。 理論と実技を並行して行ない技術を身に着けます。 ペダル系は講義のみとなりますが、自主学習時間内での個人実習は可能です。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ修理理論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修				
			年次	2 年次					
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	8回（16単位時間）	年間単位数	1 単位				
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース								
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒								
担当講師 実務経歴									
授業概要									
アップライトピアノ修理の応用を学ぶ。									
到達目標									
アップライトピアノの各部品で起こる故障に対応する修理の応用知識、工具の正しい使用方法を身につける。									

授業計画・内容	
【後期】 1回目	アップライトピアノ張弦
【後期】 2回目	バットフレンジコードの交換
【後期】 3回目	張弦キットを使用した張弦方法 1. 張弦キットの張弦方法 2. アップライトピアノ張弦との違いについて 3. 試験内容の説明
【後期】 4回目	ハンマーシャンク修理 1. ハンマーシャンク交換の手順 2. 古いハンマーシャンクの除去方法
【後期】 5回目	ハンマーシャンク修理 3. ハンマーシャンクの長さ調整方法 4. ハンマーシャンクの接着方法 5. 接着後の調整や注意点について
【後期】 6回目	アップライトピアノ 解体修理(オーバーホール) 1. オーバーホールの必要性について 2. 長年使用したことで起こる内部の部分的な故障とその修理方法
【後期】 7回目	アップライトピアノ 解体修理(オーバーホール) 3. 解体前のチェックリストの作成 4. ケースの解体、各パーツの解体方法 5. 脱弦、張弦方法
【後期】 8回目	白鍵貼り換え 1. 白鍵貼り換えの方法を知る 2. 新しい白鍵の接着方法
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	本講義は実習「修理実技Ⅱ」を行うためや、修理の必要性を理解するためのものです。修理方法を身につけるだけでなく部品の素材や特徴を理解し、各部品の正しい動作状態を覚えることも大切です。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ構造理論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	8回（16単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
ピアノに使用される木材・金属・繊維などの素材の特徴を学ぶ。					
到達目標					
上記素材で使用した部品の形状・製造方法・必要な条件などの知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1回目	アッパーブリッジ、ヒッチピン プレッシャーバー
【前期】 2回目	ハンマーヘッド、ハンマーシャンク ハンマーバット
【前期】 3回目	キャッチャー ウイペン
【前期】 4回目	ジャック バックチェック
【前期】 5回目	ブライドルワイヤー ダンパースプーン
【前期】 6回目	ダンパー ダンパーストップレール
【前期】 7回目	ダンパーロッド ジャックストップレール
【前期】 8回目	レギュレチングレール
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	ピアノに使用されている部品の材質や製造方法を理解することにより、より良い実技実習を行うことができるため、各部品の特徴を詳しく覚えることは大切です。 ※本講義で扱う内容はピアノ調律技能検定に出題されます。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器修理概論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修					
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	18回（36単位時間）	年間単位数	2単位					
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒									
担当講師 実務経歴										
授業概要										
1年次に学んだ基礎的な調整方法を元に、より細かな木管楽器修理と金管楽器修理の方法論を学ぶ。										
到達目標										
どんな状況でも修理対応ができる基礎力の修得。										

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	フルート/クラリネット 連動調整
【前期】 5～7回目	フルート調整 ラックタンボ交換、アゴ調整、ヘッドコルク交換
【前期】 8～9回目	クラリネット調整 レジスターキータンボ交換、リング高さ調整
【前期】 10～14回目	サクソ調整 ネックコルク交換、タンボ交換、連動調整
【後期】 15～16回目	トロンボーン スライド調整
【後期】 17～18回目	金管楽器 ハンダ付け
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざまで、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	管楽器商品知識Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	15回（30単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース、管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
ホルン・トロンボーン・ユーフォニウム・チューバ・オーボエ・ファゴット・マーチングブラス・アクセサリーの楽器・製品説明を、動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。					
到達目標					
楽器の特徴・メカニズム・システムから、メーカーごとの特徴・売りなど、販売修理知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ホルン概要・製品解説
【前期】 5～8回目	トロンボーン概要・製品解説
【後期】 9回目	ユーフォニウム概要・製品解説
【後期】 10～11回目	チューバ概要・製品解説
【後期】 12回目	オーボエ概要・製品解説
【後期】 13回目	ファゴット概要・製品解説
【後期】 14回目	マーチングブラス概要・製品解説
【後期】 15回目	アクセサリー製品解説
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	異なる楽器でもその特徴などは類似する点が多いので、常に関連付けて考えられるように取り組むこと。講義だけでは活きた情報にはならないので、自ら楽器店などでその製品の特長などを観察・試奏することも重要になる。
使用教科書	「管楽器価格一覧表」ミュージックトレード社、「カラー図鑑 楽器の歴史」河出書房新社、各メーカーカタログ、資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律実技(アップライト)Ⅱ－B		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	47回（94単位時間）	年間単位数	3 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 24年 中古ピアノ店に15年務め、中古ピアノの調律、整調、修理、運送などに携わり、現在は委託の調律師として活動中。				
授業概要					
毎日違うピアノ(YAMAHA、KAWAI、アポロ)のブースに入り、調律を行う。					
到達目標					
1台70分で調律する。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格					

授業計画・内容	
【前期】 1～7回目	ピッチ2Hz変更1台 120分
【前期】 8～15回目	28C～64C 割振・オクターブ調律・ユニゾン調律 70分
【前期】 16～23回目	442Hz～2Hz変更 120分 下律…約30分 本調律…約90分
【後期】 24～30回目	442Hz～2Hz変更 100分 下律…約20分 本調律…約80分
【後期】 31～38回目	4Hz上げ 110分 下律込み。
【後期】 39～47回目	ピッチ変更なし 1台70分 本調律のみ。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	各自で毎日の目標を定め、技術、スピードの向上を図ります。就職試験やピアノ調律技能検定試験など、状況によって提示される課題は異なるため、さまざまな場面で対応できる技術の幅広さ、柔軟さを持つことも大切です。調律テスト後は必ず測定器(YAMAHA PT)を使って測定。調律グラフに沿った調律が来ているか確認。
使用教科書	「調律理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調実技(アップライト)Ⅱ-B		授業形態 / 必・選	実習	必修					
			年次	2年次						
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	24回 (48単位時間)	年間単位数	1単位					
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験 30年 楽器店に15年ほど勤め、その後ピアノ調律事務所を独立開業し、現在に至る。									
授業概要										
整調実技(アップライト)Ⅰの反復練習。										
到達目標										
反復練習による精度、速度等の技術力向上。										

授業計画・内容	
【前期】 1～12回目	整調実技(アップライト)Ⅰと内容は同じ、全24工程の反復練習。
【後期】 13～24回目	
備考	原因を見つける整調
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	期限を設けて計画的に実習を行います。各工程の作業が完了するごとに講師が確認を行い、次の工程へ進みます。1年次で一連の調整方法は習得しているため、2年次では目的意識を持って作業に取り組み、時間短縮と技術向上を図ります。
使用教科書	「整調理論(アップライト)Ⅱ」と同様。

専門学校E S P エンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ演奏Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	18回（36単位時間）	年間単位数	1 単位
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 36年 業界企業特約店にて受験クラスのレッスンを担当。自宅及び出張の個人レッスンも行う。				
授業概要					
調律後に確認を行う際の演奏のための個人レッスン					
到達目標					
調律後に確認を行うための演奏技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	自由曲の選曲
【前期】 3～4回目	講師が指定したページまでのレッスン レッスン後は個々に練習して次回へ
【前期】 5～6回目	練習してきたもののチェック その後 直し
【前期】 7～8回目	通しレッスン
【後期】 9～10回目	強弱、表現のレッスン
【後期】 11～12回目	テンポ確認のレッスン
【後期】 13～15回目	通しレッスン(タイムを計る)
【後期】 16～18回目	通しレッスン 仕上げ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	演奏歴やレベルに合わせた個別レッスン。自由曲の楽譜は基本的に各自で用意となるが、学校にある楽譜であれば貸し出すことも可能です。
使用教科書	別紙譜面を配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器修理応用		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	107回（214単位時間）	年間単位数	7単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
フルート・クラリネット・サックス・トランペット・トロンボーン・ホルンの修理方法の実践。					
到達目標					
1年次の基礎を元に、より早く、より正確に楽器調整を完了させる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～53回目 【後期】 54～107回目	木管楽器リペア フルート タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キィコルク交換・バネ調整・パーツ交換（36回） 木管楽器リペア クラリネット タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換（39回） 木管楽器リペア サックス タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換（26回） 金管楽器リペア ハンダ付け・ピストン調整・スライド調整・ロータリー調整（6回）
備考	楽器ごとの実習班に分かれた作業のため、履修楽器が順番に代わる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進めることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	「管楽器修理概論Ⅱ」と同様。

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ業界演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習		必修
			年次	2年次		
授業時間	180分 (1単位時間45分)	年間授業数	7回 (28単位時間)	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	ピアノ調律コース、ピアノ／管楽器コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒					
担当講師 実務経歴						
授業概要						
楽器業界の企業による製品・技術セミナーや学園祭での接客演習、リクルートセミナー						
到達目標						
	楽器の専門知識の実践と、実際の応用方法を理解する					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	楽器業界の企業による製品・技術セミナー①②
【後期】 3～6回目	調律師としてのマナー講座(言葉遣い、身だしなみなど) 現場を想定したシミュレーション
【後期】 7回目	E S P 学園主催イベント
評価方法	平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	実際に仕事を体験することで、進路に対しての興味を持ち積極的な行動ができるよう努めること。
使用教科書	適宜資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律応用実技(アップライト)A		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	36回（72単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 24年 中古ピアノ店に15年務め、中古ピアノの調律、整調、修理、運送などに携わり、現在は委託の調律師として活動中。				
授業概要					
毎日違うピアノ(YAMAHA、KAWAI、アポロ)のブースに入り、調律を行う。					
到達目標					
バランス良く1台調律をする。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格					

授業計画・内容	
【前期】 1～18回	ピッチ2Hz変更 1台調律 110分
【後期】 19～36回	ピッチ2Hz変更 1台調律 100分
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	就職試験やピアノ調律技能検定試験など、状況によって提示される課題は異なるため、さまざまな場面で対応できる技術の幅広さ、柔軟さを持つことも大切です。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「調律理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律応用実技(アップライト)B		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	72回（144単位時間）	年間単位数	4 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 24年 中古ピアノ店に15年務め、中古ピアノの調律、整調、修理、運送などに携わり、現在は委託の調律師として活動中。				
授業概要					
毎日違うピアノ(YAMAHA、KAWAI、アポロ)のブースに入り、調律を行う。					
到達目標					
バランス良く1台調律をする。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格					

授業計画・内容	
【前期】 1～36回	ピッチ2Hz変更 1台調律 95分
【後期】 37～72回	ピッチ2Hz変更 1台調律 90分
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	就職試験やピアノ調律技能検定試験など、状況によって提示される課題は異なるため、さまざまな場面で対応できる技術の幅広さ、柔軟さを持つことも大切です。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「調律理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律応用実技(アップライト)C		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	108回 (216単位時間)	年間単位数	7 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 24年 中古ピアノ店に15年務め、中古ピアノの調律、整調、修理、運送などに携わり、現在は委託の調律師として活動中。				
授業概要					
毎日違うピアノ(YAMAHA、KAWAI、アポロ)のブースに入り、調律を行う。					
到達目標					
バランス良く1台調律をする。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格。さまざまな現場での業務に対応出来る技術習得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～54回	ピッチ2Hz変更 1台調律 85分
【後期】 55～108回	ピッチ2Hz変更 1台調律 80分
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	就職試験やピアノ調律技能検定試験など、状況によって提示される課題は異なるため、さまざまな場面で対応できる技術の幅広さ、柔軟さを持つことも大切です。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。また、現場での作業時間をイメージして行うこと。
使用教科書	「調律理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律応用実技(アップライト)D		授業形態 / 必・選	実習		選択		
			年次	2 年次				
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	144回（288単位時間）	年間単位数	9 単位			
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース							
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目						該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験 24年 中古ピアノ店に15年務め、中古ピアノの調律、整調、修理、運送などに携わり、現在は委託の調律師として活動中。							
授業概要								
毎日違うピアノ(YAMAHA、KAWAI、アポロ)のブースに入り、調律を行う。								
到達目標								
バランス良く1台調律をする。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格。さまざまな現場での業務に対応出来る技術習得。								

授業計画・内容	
【前期】 1～72回	ピッチ2Hz変更 1台調律 75分
【後期】 73～144回	ピッチ2Hz変更 1台調律 70分
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	就職試験やピアノ調律技能検定試験など、状況によって提示される課題は異なるため、さまざまな場面で対応できる技術の幅広さ、柔軟さを持つことも大切です。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。また、現場での作業時間をイメージして行うこと。
使用教科書	「調律理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律実技(グランド)A		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	36回（72単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 24年 調律事務所にてピアノ調律業務に携わり、その後フリーランスの調律師として活動中。				
授業概要					
YAMAHA、KAWAIのグランドピアノを使用し、110分で調律を行う。					
到達目標					
グランドピアノの調律を習得し、1台110分以内で仕上げることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目 【後期】 19～36回目	■グランドピアノ調律の準備 ・屋根の開け方、鍵盤蓋・譜面台の取り外し方法 ・アップライトピアノとの調律方法の違い ・各セクションでの工具の使用法 ■調律方法 ・ピッチ採り、割振り 音叉を使用し、440Hz 442Hzどちらかのピッチに合わせる。 その後、37A - 42Dから割振りを始める。 ・中音オクターブの調律 ・低音オクターブ調律 ・高音オクターブ調律 ・低音、高音、中音 各セクションのユニゾン調律 ■各セクションでの工具の使い方について 調律方法はアップライトピアノとほぼ同じだが、工具の使用法或使用箇所は異なることもある。
備考	上記工程を反復行うことで、グランドピアノならではの音を感覚的に捉えられるようになり、繰り返すほどその感覚は優れたものとなり、調律精度の向上、時間の短縮につながり、調律師としての技術力が向上する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	グランドピアノならではの音を感覚的に捉えられるようになるためには、反復トレーニングは欠かせません。繰り返すほどその感覚は優れたものとなり、調律精度の向上、時間短縮にもつながります。
使用教科書	「調律理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	調律実技(グランド)B		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	72回 (144単位時間)	年間単位数	4 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 24年 調律事務所にてピアノ調律業務に携わり、その後フリーランスの調律師として活動中。				
授業概要					
YAMAHA、KAWAIのグランドピアノを使用し、100分で調律を行う。					
到達目標					
グランドピアノの調律を習得し、1台100分以内で仕上げることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～36回目 【後期】 37～72回目	■グランドピアノ調律の準備 ・屋根の開け方、鍵盤蓋・譜面台の取り外し方法 ・アップライトピアノとの調律方法の違い ・各セクションでの工具の使用法 ■調律方法 ・ピッチ採り、割振り 音叉を使用し、440Hz 442Hzどちらかのピッチに合わせる。 その後、37A - 42Dから割振りを始める。 ・中音オクターブの調律 ・低音オクターブ調律 ・高音オクターブ調律 ・低音、高音、中音 各セクションのユニゾン調律 ■各セクションでの工具の使い方について 調律方法はアップライトピアノとほぼ同じだが、工具の使用法や使用箇所は異なることもある。
備考	上記工程を反復行うことで、グランドピアノならではの音を感覚的に捉えられるようになり、繰り返すほどその感覚は優れたものとなり、調律精度の向上、時間の短縮につながり、調律師としての技術力が向上する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	グランドピアノならではの音を感覚的に捉えられるようになるためには、反復トレーニングは欠かせません。繰り返すほどその感覚は優れたものとなり、調律精度の向上、時間短縮にもつながります。
使用教科書	「調律理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ修理実技A		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	36回（72単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 6年 調律事務所に2年半勤め、個人宅のピアノ調律・調整に携わり、現在はフリーランスとして 中古ピアノの修理や施設のピアノメンテナンスを中心に活動中				
授業概要					
1年次に修得した技術の応用に新たな技術を加え、各部品の修理を行う。					
到達目標					
反復練習による精度、速度等の技術力向上。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	グランドピアノのセンターピン交換
【前期】 4～6回目	バットフレンジコードの交換
【前期】 7～18回目	張弦キットを使用した張弦 「ピアノ調律技能検定 実技試験」で使用する張弦キットを用いての張弦
【後期】 19～21回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンク抜きと接着剤の除去 ・シャンクの植え付け(ヘッド側)
【後期】 22～24回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンクの植え付け(バット側) ・シャンクの接着
【後期】 25～28回目	ハンマーシャンク修理 ・ハンマー角度の修正
【後期】 29～32回目	白鍵貼り替え ・余分な鍵盤の除去 ・新しい白鍵の接着
【後期】 33～36回目	白鍵貼り替え ・側面の整形 ・鍵盤欠き部、木口の整形 ・面取り、研磨仕上げ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	各修理、期限を設けて計画的に作業を進めます。講義「修理工論Ⅰ」「修理工論Ⅱ」で習得した作業方法に則って、反復練習を行います。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「ピアノ修理理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ修理実技B		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	72回（144単位時間）	年間単位数	4 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 6年 調律事務所に2年半勤め、個人宅のピアノ調律・調整に携わり、現在はフリーランスとして 中古ピアノの修理や施設のピアノメンテナンスを中心に活動中				
授業概要					
1年次に修得した技術の応用に新たな技術を加え、各部品の修理を行う。					
到達目標					
反復練習による精度、速度等の技術力向上。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格					

授業計画・内容	
【前期】 1～6回目	グランドピアノのセンターピン交換
【前期】 7～12回目	バットフレンジコードの交換
【前期】 13～36回目	張弦キットを使用した張弦 「ピアノ調律技能検定 実技試験」で使用する張弦キットを用いての張弦
【後期】 37～42回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンク抜きと接着剤の除去 ・シャンクの植え付け(ヘッド側)
【後期】 43～48回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンクの植え付け(バット側) ・シャンクの接着
【後期】 49～54回目	ハンマーシャンク修理 ・ハンマー角度の修正
【後期】 55～60回目	白鍵貼り替え ・余分な鍵盤の除去 ・新しい白鍵の接着
【後期】 61～72回目	白鍵貼り替え ・側面の整形 ・鍵盤欠き部、木口の整形 ・面取り、研磨仕上げ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	各修理、期限を設けて計画的に作業を進めます。講義「修理理論Ⅰ」「修理理論Ⅱ」で習得した作業方法に則って、反復練習を行います。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「ピアノ修理理論Ⅱ」と同様。

専門学校 E S P エンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ修理実技C		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	108回（216単位時間）	年間単位数	7 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 6年 調律事務所に2年半勤め、個人宅のピアノ調律・調整に携わり、現在はフリーランスとして 中古ピアノの修理や施設のピアノメンテナンスを中心に活動中				
授業概要					
1年次に修得した技術の応用に新たな技術を加え、各部品の修理を行う。					
到達目標					
反復練習による精度、速度等の技術力向上。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格。即戦力になるための技術を身に着ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～12回目	グランドピアノのセンターピン交換
【前期】 13～24回目	バットフレンジコードの交換
【前期】 25～54回目	張弦キットを使用した張弦 「ピアノ調律技能検定 実技試験」で使用する張弦キットを用いての張弦
【後期】 55～66回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンク抜きと接着剤の除去 ・シャンクの植え付け(ヘッド側)
【後期】 67～78回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンクの植え付け(バット側) ・シャンクの接着
【後期】 79～90回目	ハンマーシャンク修理 ・ハンマー角度の修正
【後期】 91～99回目	白鍵貼り替え ・余分な鍵盤の除去 ・新しい白鍵の接着
【後期】 100～108回目	白鍵貼り替え ・側面の整形 ・鍵盤欠き部、木口の整形 ・面取り、研磨仕上げ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	各修理、期限を設けて計画的に作業を進めます。講義「修理理論Ⅰ」「修理理論Ⅱ」で習得した作業方法に則って、反復練習を行います。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「ピアノ修理理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ピアノ修理実技D		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	144回（288単位時間）	年間単位数	9 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 6年 調律事務所に2年半勤め、個人宅のピアノ調律・調整に携わり、現在はフリーランスとして 中古ピアノの修理や施設のピアノメンテナンスを中心に活動中				
授業概要					
1年次に修得した技術の応用に新たな技術を加え、各部品の修理を行う。					
到達目標					
反復練習による精度、速度等の技術力向上。 「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格。即戦力になるための技術を身に着ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～24回目	グランドピアノのセンターピン交換
【前期】 25～48回目	バットフレンジコードの交換
【前期】 49～72回目	張弦キットを使用した張弦 「ピアノ調律技能検定 実技試験」で使用する張弦キットを用いての張弦
【後期】 73～96回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンク抜きと接着剤の除去 ・シャンクの植え付け(ヘッド側)
【後期】 97～108回目	ハンマーシャンク修理 ・シャンクの植え付け(バット側) ・シャンクの接着
【後期】 109～120回目	ハンマーシャンク修理 ・ハンマー角度の修正
【後期】 121～129回目	白鍵貼り替え ・余分な鍵盤の除去 ・新しい白鍵の接着
【後期】 130～144回目	白鍵貼り替え ・側面の整形 ・鍵盤欠き部、木口の整形 ・面取り、研磨仕上げ
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	各修理、期限を設けて計画的に作業を進めます。講義「修理理論Ⅰ」「修理理論Ⅱ」で習得した作業方法に則って、反復練習を行います。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「ピアノ修理理論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調応用実技(アップライト)A		授業形態 / 必・選	実習		選択
			年次	2 年次		
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	36回（72単位時間）	年間単位数	2 単位	
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	実務経験 30年 楽器店に15年ほど勤め、主にピアノ調律に関する業務に携わる。その後独立し、調律師として活躍中					
授業概要						
1年次に修得した整調実技の能力を高め、時間短縮、技術向上のため、以下の内容を繰り返し行う。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」の試験に向けた対策を行う。						
到達目標						
整調時間短縮、精度向上。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格						

授業計画・内容	
【前期】 1～18回	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて ・から直し ・鍵盤ならし ・鍵盤あがき ・ハンマー接近 ・ハンマーストップ ・スプーン掛け ・ハンマーストップ ・スプーン掛け 計8工程の作業確認
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を30分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を20分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を15分で作業
【後期】 19～36回	ピアノ調律技能検定 実技試験に向けて ポイントとなる工程の練習
	試験練習 (30分×2セット) 判定後、直し
	試験練習 (15分×3セット) 判定後、直し
	1台整調
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	試験合格のためには日々コツコツと練習を重ね、着実に実技レベルを向上させていく必要があります。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「整調理論(アップライト)Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調応用実技(アップライト)B		授業形態 / 必・選	実習		選択
			年次	2 年次		
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	72回（144単位時間）	年間単位数	4 単位	
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	実務経験 30年 楽器店に15年ほど勤め、主にピアノ調律に関する業務に携わる。その後独立し、調律師として活躍中					
授業概要						
1年次に修得した整調実技の能力を高め、時間短縮、技術向上のため、以下の内容を繰り返し行う。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」の試験に向けた対策を行う。						
到達目標						
整調時間短縮、精度向上。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格						

授業計画・内容	
【前期】 1～36回	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて ・から直し ・鍵盤ならし ・鍵盤あがき ・ハンマー接近 ・ハンマーストップ ・スプーン掛け ・ハンマーストップ ・スプーン掛け 計8工程の作業確認
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を30分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を20分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を15分で作業
【後期】 37～72回	ピアノ調律技能検定 実技試験に向けて ポイントとなる工程の練習
	試験練習(30分×2セット) 判定後、直し
	試験練習(15分×3セット) 判定後、直し
	1台整調
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	試験合格のためには日々コツコツと練習を重ね、着実に実技レベルを向上させていく必要があります。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「整調理論(アップライト)Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調応用実技(アップライト)C		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	108回（216単位時間）	年間単位数	7 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 30年 楽器店に15年ほど勤め、主にピアノ調律に関する業務に携わる。その後独立し、調律師として活躍中				
授業概要					
1年次に修得した整調実技の能力を高め、時間短縮、技術向上のため、以下の内容を繰り返し行う。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」の試験に向けた対策を行う。					
到達目標					
整調時間短縮、精度向上。即戦力になるための技術を身に着ける。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格					

授業計画・内容	
【前期】 1～54回	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて ・から直し ・鍵盤ならし ・鍵盤あがき ・ハンマー接近 ・ハンマーストップ ・スプーン掛け ・ハンマーストップ ・スプーン掛け 計8工程の作業確認
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を30分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を20分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を15分で作業
【後期】 55～108回	ピアノ調律技能検定 実技試験に向けて ポイントとなる工程の練習
	試験練習 (30分×2セット) 判定後、直し
	試験練習 (15分×3セット) 判定後、直し
	1台整調 現場で起こるトラブルに対処できるようになるため不備を探す練習
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	試験合格のためには日々コツコツと練習を重ね、着実に実技レベルを向上させていく必要があります。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「整調理論(アップライト)Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	整調応用実技(アップライト)D		授業形態 / 必・選	実習		選択		
			年次	2 年次				
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	144回（288単位時間）	年間単位数	9 単位			
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース							
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目						該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験 30年 楽器店に15年ほど勤め、主にピアノ調律に関する業務に携わる。その後独立し、調律師として活躍中							
授業概要								
1年次に修得した整調実技の能力を高め、時間短縮、技術向上のため、以下の内容を繰り返し行う。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」の試験に向けた対策を行う。								
到達目標								
整調時間短縮、精度向上。即戦力になるための技術を身に着ける。 「コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格」「ピアノ調律技能検定 実技試験」合格								

授業計画・内容	
【前期】 1～72回	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて ・から直し ・鍵盤ならし ・鍵盤あがき ・ハンマー接近 ・ハンマーストップ ・スプーン掛け ・ハンマーストップ ・スプーン掛け 計8工程の作業確認
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を30分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を20分で作業
	コルグ消音ピアノ・ユニット取付技術認定資格の取得に向けて 試験内容を15分で作業
【後期】 73～144回	ピアノ調律技能検定 実技試験に向けて ポイントとなる工程の練習
	試験練習(30分×2セット) 判定後、直し
	試験練習(15分×3セット) 判定後、直し
	1台整調 現場で起こるトラブルに対処できるようになるため不備を探す練習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	試験合格のためには日々コツコツと練習を重ね、着実に実技レベルを向上させていく必要があります。目標に到達するためには、回数をこなすことが大事です。
使用教科書	「整調理論(アップライト)Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器リペアトレーニングA		授業形態 / 必・選	実習		選択		
			年次	2 年次				
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	36回（72単位時間）	年間単位数	2 単位			
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース							
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目						該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴								
授業概要								
内容は原則として管楽器修理応用に準ずる。								
到達目標								
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。 楽器の仕組みを理解し、状態を確認とメンテナンス技術を習得する。								

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目 【後期】 19～36回目	木管楽器リペア フルート タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キィコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
備考	修理内容は履修の希望をとり、講師と話し合いのうえ決定する。 選択内容により楽器ごとの履修時間は異なる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。楽器店での商品管理、商品紹介のための技術を目的とする。
使用教科書	「管楽器修理概論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器リペアトレーニングB		授業形態 / 必・選	実習	選択				
			年次	2 年次					
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	72回（144単位時間）	年間単位数	4 単位				
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース								
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒								
担当講師 実務経歴									
授業概要									
内容は原則として管楽器修理応用に準ずる。									
到達目標									
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。 メンテナンスを中心に部分調整などの軽修理を習得する。									

授業計画・内容	
【前期】 1～36回目 【後期】 37～72回目	木管楽器リペア フルート タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
備考	修理内容は履修の希望をとり、講師と話し合いのうえ決定する。 選択内容により楽器ごとの履修時間は異なる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。楽器店や営業先での商品管理、商品紹介、楽器管理のアドバイスのための技術を目的とする。
使用教科書	「管楽器修理概論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器リペアトレーニングC		授業形態 / 必・選	実習 選択						
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	108回（216単位時間）	年間単位数	7単位					
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒									
担当講師 実務経歴										
授業概要										
内容は原則として管楽器修理応用に準ずる。										
到達目標										
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。 部分的な調整などの軽修理を中心に習得する。										

授業計画・内容	
【前期】 1～54回目 【後期】 55～108回目	木管楽器リペア フルート タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キィコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
備考	修理内容は履修の希望をとり、講師と話し合いのうえ決定する。 選択内容により楽器ごとの履修時間は異なる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。楽器店での接客や、営業先での簡単な修理技術を目的とする。
使用教科書	「管楽器修理概論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器リペアトレーニングD		授業形態 / 必・選	実習	選択					
			年次	2年次						
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	144回（288単位時間）	年間単位数	9単位					
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒									
担当講師 実務経歴										
授業概要										
内容は原則として管楽器修理応用に準ずる。										
到達目標										
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。 楽器全体の基本的な調整を習得する。										

授業計画・内容	
【前期】 1～72回目 【後期】 73～144回目	木管楽器リペア フルート タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キィコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
備考	修理内容は履修の希望をとり、講師と話し合いのうえ決定する。 選択内容により楽器ごとの履修時間は異なる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。楽器店や営業先での接客や簡単な修理技術を目的とする。
使用教科書	「管楽器修理概論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器リペアトレーニングE		授業形態 / 必・選	実習		選択
			年次	2 年次		
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1 単位	
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目					
	該当 ☐ 非該当 ☒					
担当講師 実務経歴						
授業概要						
内容は原則として管楽器修理応用に準ずる。						
到達目標						
楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。						

授業計画・内容	
【前期】or【後期】 1～20回目	木管楽器リペア フルート タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ヘッドコルク交換・キコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア クラリネット タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ジョイントコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	木管楽器リペア サックス タンボ交換調整・連動調整・バランス調整・ネックコルク交換・バネ調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トランペット ハンダ付け・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア トロンボーン スライド停止帯交換・スライド調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ホルン ロータリー調整・拔差管調整・パーツ交換
	金管楽器リペア ヘコ出し
備考	修理内容は履修の希望をとり、講師と話し合いのうえ決定する。 選択内容により楽器ごとの履修時間は異なる。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。アンサンブルとの選択授業のため、他の管楽器リペアトレーニング選択に準じた内容になる。
使用教科書	「管楽器修理概論Ⅱ」と同様。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ウインドアンサンブルA		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	20回（40単位時間）	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 36年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。				
授業概要					
吹奏楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】or【後期】 1～20回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	管楽器リペア科との合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ウインドアンサンブルB		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	2 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	40回（80単位時間）	年間単位数	2 単位
科目設置学科コース	ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 36年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。				
授業概要					
吹奏楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～20回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
【後期】 21～40回目	・楽器演奏基礎向上（メロディー、ハーモニー、スケール） ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	管楽器リペア科との合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布